

伊勢神宮と神宮大麻

伊勢の神宮は、

日本の国をお守り
くださる私たちの
総氏神さまです。

皇室の御祖先の神

さまである天照大

御神をおまつりす

る皇大神宮(内宮)

と、衣食住の神さ

まである豊受大御

神をおまつりする

豊受大神宮(外宮)

を中心に、二五の

宮社からなります。

三重県伊勢市に鎮座し、四季折々

のまつりが、悠久の歴史とともに伝えられている「日

本人の心のふるさと」です。

伊勢の神宮のお神札が神宮大麻です。大麻とは、

古くは「おおぬさ」と読み、折りがこめられるお神札

の大切な部分(麻串)に由来する歴史のある言葉です。

また、昔から「お伊勢さん」「お祓いさん」とも呼

ばれています。「天照皇大神宮」の神号に神さまの印

が押され、清浄を第一に数々のおまつりを経て伊勢の

神宮で奉製されています。毎年暮に氏神さまを通じて

各家庭に配られます。



氏神さま

氏神さまは、地域の守り神として全国各地におま

つりされている神社です。鎮守さま、産土さまとも

称され、地元の人々によって昔から大切にされてい

ます。みなさんの住んでいる地域の氏神さまも、正月

の初詣はもちろん、夏祭りや秋祭りなど、大勢の人で

賑わうことでしょう。

神棚には、神宮大麻とともに氏神さまのお神札も

おまつりします。また、お宮参りや七五三などの人生

儀礼、地鎮祭や上棟祭などの建築のまつりは、氏神神

社にお願いして執り行うのが、古くからの伝統です。

神棚のまつり方

神棚は家庭の中心ですから、いつもきれいにし

ておきます。神棚には、神宮大麻、氏神さまのお神札、

そして崇敬する神社のお神札などをおまつりします。

新年には新しいお神札を受け、古いお神札は氏神さ

まに納めます。

神棚のない場合

タンスや本棚の上をきれいにし、そこに宮形を置き、神

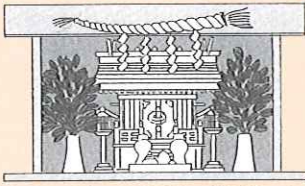
棚に代えるのもよいでしょう。壁掛けにもできる小型の宮形

もあります。

神棚の設置がむずかしい場合でも、できるところから工夫

してお神札をおまつりし、家族のしあわせを祈りましょう。

一般的な神棚まつりの図

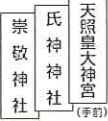


(南向きか東向きに設けるのが理想です。)

- 宮形** お神札を納める小型の社。一般にこれを神棚と言います。
- 注連縄** 神聖な場所を示す標として神棚の前に張ります。
- 神** 樹の育たない地域では他の常緑樹を供えます。
- お供え** 神さまが召し上げる食事です。

宮形へのお神札の納め方

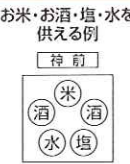
一社づくりの場合



三社づくりの場合



お供えの一例



各家庭でまつり方も工夫してみましょう

- 家族の記念日には、丁寧にまつります。
- 初物やいただき物は、まず神棚にお供えする。
- 故郷の氏神さまのお神札もまつりする。

忌服について(家庭で不幸があった場合)

家庭にご不幸がありました場合は、通常五十日間を忌中として故人のおまつりに専念し、神棚のまつりは遠慮いたします。忌の期間が正月をはさむ場合は、忌が明けてから氏神さまからお神札を受け、神棚におまつりしましょう。

家庭のまつりあれこれ

神棚のまつりの他に、家庭にゆかりの深い年中行事や人生儀礼、建築のまつりについて簡単に解説します。

年中行事と人生儀礼

日本人は、春夏秋冬のはっきりした自然と、米づくり中心の暮らしの中で、年中行事を大切に伝えてきました。また、様々な人生儀礼を通して子どもから大人への成長を共に祝い、社会の一員としての自覚を新たにしてきました。地方により名称や時期に違いがありますが、代表的なものを掲げておきます。

年中行事カレンダー				
お正月	春	夏	秋	冬
正月祝い	節分	端午の節句 大祓	お月見	煤払い (大掃除)
初詣	初午	ひな祭り	お彼岸	冬至
七草かゆ	お彼岸	七夕	秋祭り	餅つき
鏡開き		夏祭り	(神嘗祭・新嘗祭)	大祓
どんど焼		お盆		

主な人生儀礼

お七夜・命名・初宮詣・七五三・十三参り・成人式・結婚式・厄祓い・還暦・長寿の祝い(古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿など)

建築のまつり

家の新築に際しては、始めに地鎮祭を行い、家の骨組みができる上棟祭を行います。これらは、工事の安全を祈るとともに、家屋が、土地や木材など自然の恩恵によりつくられることを神々に感謝するものです。家が完成すると竣工祭を行い家の内外を祝い清めてお祝いします。その時一緒に、新しい神棚をおまつりしましょう。

家の新築や引越の際には、あらかじめ神棚の設置について相談しておくのがよいでしょう。